

令和 7 年度 学校関係評価委員会

学校法人有坂中央学園 群馬法科ビジネス専門学校

学校関係者評価委員会

群馬法科ビジネス専門学校 学校評価委員会は「令和 6 年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を令和 7 年 10 月 20 日に実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員会

企業等委員：猪俣 猛

保護者会：蛭原 優子

卒業生：梅原 振一郎

2. 学校の教育目標

公平無私に市民へ奉仕する公務員の育成と経済活動を推進できるバランス感覚の優れた豊かな人間性を持つ人材を育成し社会に貢献する。

3. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・本学の教育内容・評価に関し、広く告知できる環境を整備する。
- ・告知に値する成果を得られるよう、教育環境を充実する。
- ・別科、テストセンターの売り上げ確保

4. 令和 6 年度自己点検・自己評価における学校関係者評価(群馬法科ビジネス専門学校)

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1. 教育理念・目標	●教育理念・目標についての取組は概ね達成しているので、5 年後の社会ニーズの変化に対応した将来構想を描いていく。	○教育課程編成委員会における指摘を踏まえ、社会から求められる公務員像を常に確認しておく。公務員として、必要とされる知識やスキルを習得できるカリキュラムの構築。

2. 学校運営	<p>●前年度に比べると、職員数が減ってしまったこともあり、職員間での評価体制の確立が不十分である。</p> <p>●研修関係の計画に関しては、本部のほうでは計画はしていると思うが、本校のほうではできていなかった。</p>	<p>○全職員が目的・情報を共有し、明確な指示の下、一体となって行動できるようにする。</p> <p>○関連部署との意見交換の場を増やす。</p>
3. 教育活動	<p>●事務系のインターンシップ先(市役所など)の受入れが難しい。</p> <p>【現状】新聞社の見学、学校事務の方に来校していただいてお話をしてもらうなど</p>	<p>○インターンシップ等実習先の充実を図る。</p> <p>○インターンシップの受入れ官庁を探す。</p>
4. 学修成果・教育成果	<p>●本校の場合は卒業生の就職先が官公庁になるので、卒業後の動向把握が難しいのが現状。</p> <p>→オープンキャンパス時に卒業生を呼んでいるため、そのタイミングで卒業生の動向を把握している。</p>	<p>○卒業生の現況の把握・調査を定期的に行う。</p> <p>○進路先による業務説明会を実施することで卒業生の状況を確認する。</p>
5. 学生支援	<p>●公務員試験に合格した学生の退学があるため、退学者は多い。</p> <p>●年2回、保護者会を開いているが、保護者会に参加できない方達との連携が難しい。</p>	<p>○保護者が気軽に相談できる連絡手段の確立。学校での状況などをこまめに報告する。</p>
6. 教育環境	<p>●施設・設備の点検、補修・修繕等是不十分である。(建物の劣化や電子機器など)</p> <p>●定期的な備品などの管理が行われていない。</p>	<p>○施設・設備に関して最先端の教育環境の整備は必要ではあるが、予算的にも優先順位をつけて段階的に整える</p> <p>○備品管理の管理シートの作成を行う。</p>

7. 学生の受入れ募集	●昨年度は募集に苦戦をしていたが、今年度は回復が見込まれる。	○昨年度に比べて、セミナーの告知などを少し早めに始めた。また今年度、公務員受験を受ける学生に対しても本校の学校概要説明や入試説明を行った。 ○入学前の学習支援を行ったことによって、入学前に公務員のことについて知る機会ができた。
8. 教育の内部質保証システム	●教育の内部保証システムについては、概ね達成しているが自己点検評価の改善が十分に行われていない。	○学校マネジメントと教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会などを体系的・計画的に行っていく。改善点については、改善案を考え、次年度に実施できる体制を作る。
9.財務	●公務員試験が簡易化されていく中で、新しいことに挑戦していく必要がある。	○オープンキャンパス・高校での派遣講座・校内ガイダンスなどで公務員の魅力を伝えて、公務員希望者を増やしていく。
10.社会貢献・地域貢献	●社会貢献・地域貢献についての取組は、消防団活動や様々なボランティア活動の実施をおこなっているため概ね達成している。	○引き続き、消防団活動や様々なボランティア活動を積極的に行い、社会・地域貢献を果たしていく。
11.国際交流	●外国人留学生の受け入れはない。	○特になし

5. 総評

学校関係者評価委員へ上記について報告した結果、多くの建設的な意見をいただくとともに、当校の教育活動について概ね好評をいただくことができた。しかし、当校の不十分である部分はしっかりと受け止め、改善案を実践していくことが重要であると考えている。今回の評価について職員間で意見交換を行い、社会や高校現場から求められる教育機関を目指していきたい。公務員になることを目的とするのではなく、そこを前提とした、公務員として活躍できる人材育成を念頭に置いたカリキュラム構築に取り組んでいきたい。